

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
作成(所管課)	環境農林水産部水産課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○水産物の安定的な供給を行うとともに
海域環境の保全の役割を果たす

- ・環境と調和に配慮した水産動植物の増殖を図る。
- ・将来にわたって持続可能な制度としていくため、法人運営の安定性の確保を図る。

■ 大阪府の施策

- ・「水産業」の振興

基本方針

1 効率的な栽培漁業の展開と栽培漁業への理解

- ・大阪府栽培漁業基本計画に基づき、種苗生産、中間育成及び放流事業を実施。近隣府県との積極的な連携を図り、より効率的な栽培漁業を展開する。
- ・栽培漁業の成果等をHPやSNS等を使って広く発信していく。

2 法人運営の安定化

- ・より効率的・効果的な事業実施を図るとともに、安定的な運営に努める。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 栽培漁業の着実な推進

- ・稚魚放流尾数
(第8次大阪府栽培漁業基本計画・中期経営計画に基づくヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグの放流)
【29.6万尾(R6実績)→31.0万尾(R8)】
- ・稚魚歩留まり達成率
【152.4%(R6実績)→135.0%(R8)】
- ・栽培漁業の発信
(報道提供やHP等による栽培漁業の発信)
【23回/年(R6実績)→20回/年(R8)】

② 法人運営の安定性の確保

- ・余剰種苗による収益の確保
(キジハタ等余剰種苗の譲渡により継続的な収入の確保を図る)
【26,675千円(R6実績見込)→24,000千円(R8)】
- ・栽培事業費
【52,086千円(R6実績見込)→52,000千円(R8)】

③ 事務局費の抑制

- ・事務局費
【28,052千円(R6実績見込)→26,500千円(R8)】

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R7 目標値	最終年度 目標値		
① 栽培漁業の着実な推進	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1)/計画歩留まり率(*2)) (*1)R6実績歩留まり率＝放流尾数/種苗生産尾数＝ 76.2% (*2)府栽培漁業基本計画の歩留まり率=50%		%	15	148.4	135.0	152.4	↓ 135.0	15	135.0	135.0	栽培漁業センターの種苗生産能力や 技術レベル、生産棟の屋根改修工事 の影響を踏まえて中期経営計画の目 標値を設定	稚魚の餌となるフムシの安定確保や栽培技術力の向上等による 効率的、効果的な種苗生産・放流の実施
	栽培漁業の発信 (報道提供やHP等による栽培漁業の発信)		回	5	22	22	23	25	5	20	20	R7年度は、第45回全国豊かな海づく り大会「魚庭(なにわ)の海おおさか大 会」関係の情報発信も行うため、中期 経営計画より5回多い目標値を設定	種苗生産現場や放流風景等を報道提供やHP、SNS等により発信 する
Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)													
② 法人運営の安定性の確保	余剰種苗による収益の確保		千円	10	33,817	21,000	〔26,675〕	↓ 24,000	10	24,000	24,000	稚魚を生産する際にできる余剰種苗 の生産量により中期経営計画の目標 値を設定 ※計画中間見直しにより目標額を増 額	産卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技術の向上による生残尾数の 増加及び譲渡先の開拓
	栽培事業費		千円	10	52,061	50,000	×〔52,086〕	↓ 52,500	10	52,500	52,000	中期経営計画に基づき目標値を設定 ※計画中間見直しにより、第45回全 国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ) の海おおさか大会」に係る受託事業 費(R7:2,500千円、R8見込:2,000千 円)を含む額に修正	R1年度から取り組んでいる一部魚種の種苗生産・調達方法の見 直しによるコスト削減を継続するとともに、その他経費(消耗品 等)の削減努力を行う
③ 事務局費の抑制	事務局費		千円	10	22,505	26,500	×〔28,052〕	28,052	10	26,500	26,500	事務局費については、人件費等の固 定費が多くを占め、大幅削減は困難 であることを勘案し、R7年度目標値は R6実績値(見込値)と同額を設定	引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など人件費の抑 制に取り組むとともに、その他事務経費の削減に努める

【凡例】

- ・☆はR7年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

■ 目標値未達成の要因について

様式4

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

[1]

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
栽培事業費	千円	50,000	[52,086]	△2,086

未達成の要因					要因分析(要因と考える根拠)					要因分析を踏まえた今後の対応
①	修繕費の増加				取水ポンプやブロアー等で、予期せぬ故障、不具合が発生したため、1,148千円の修繕費が発生した。					今回の修繕した設備は、現在問題なく稼働している。 その他の設備も含め、計画的に保守・点検を実施することで、引き続き、各年度に要するコストの平準化を図っていく。
	関連項目名	修繕費	単位	千円	R6当初想定値	0	R6実績値	1,148	差	1,148
②	燃料費の増加				飼育海水の加温のためのボイラーで使用する重油代について、令和5年度と同等の1,620千円程度を見込んでいたが、令和6年度は3,040千円と約1,420千円増加した。 [要因] ・令和6年度からヒラメ種苗を、当栽培センターで生産したキジハタ稚魚との等価交換により入手している。令和5年度までは5cmサイズの種苗を購入していたが、令和6年度は等価交換先の条件により3cmの種苗しか入手できず、成育促進のため海水加温が必要となったため、重油使用量が増加した。					全体の費用抑制に繋がるため、ヒラメ種苗は等価交換による調達方法を継続するものの、現在の契約相手以外で追加の燃料費が発生しない種苗入手ができないか検討していく。
	関連項目名	燃料費	単位	千円	R6当初想定値	1,620	R6実績値	3,040	差	1,420

■ 目標値未達成の要因について

様式4

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

[2]

成果測定指標	単位	R6年度目標値	R6年度実績値	目標値との差
事務局費	千円	26,500	[28,052]	△1,552

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	人件費の増加			人件費(給与手当、福利厚生費)について、R6年度は約21,118千円(R5年度より4,300千円増)を見込んでいたが、府の給与改定もあり、約22,270千円となり、想定より約1,152千円増加した。						引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など、人件費の抑制に取り組むとともに、光熱費等その他事務経費の削減に努める。
	関連項目名	人件費	単位	千円	R6当初想定値	21,118	R6実績値	22,270	差	1,152

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
余剰種苗による収益の確保	千円	〔26,675〕	24,000

マイナス (現状維持) 目標の考え方	令和6年度については、これまでも購入してもらっている団体等が継続して購入いただけたことにより、目標としていた21,000千円を達成できた。 本指標は、購入ニーズにも左右されること、また、令和7年度については、生産棟の屋根の改修工事により生産数量を抑制しなければならない可能性があることも踏まえ、令和7年度は見直し後の中期経営計画の現目標値としている。 ※令和6年度末に実施した中期経営計画の中間見直しでも反映済み
--------------------------	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
栽培事業費	千円	〔52,086〕	52,500

マイナス (現状維持) 目標の考え方	令和7年度については、これまでの目標値50,000千円に、第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おおさか大会」のリレー放流やプレイベントに必要な種苗生産・中間育成・放流に係る費用が増加するため2,500千円増額し、52,500千円を目標値としている。 ※令和6年度末に実施した中期経営計画の中間見直しでも反映済み
--------------------------	--

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
事務局費	千円	〔28,052〕	28,052

マイナス (現状維持) 目標の考え方	これまでも削減を図ってきているが、人件費等の固定費が多くを占め、大幅な削減が困難なため、令和7年度については、令和6年度の実績値(見込値)と同額とした。 事務局費の抑制のため、引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など人件費の抑制に取り組むとともに、光熱費、旅費、コピー用紙・印刷費などの事務費の削減に努めていく。
--------------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値

マイナス (現状維持) 目標の考え方	
--------------------------	--